

【平成28年度学校評価：全体にかかわって】

1 〈人権を尊重した接し方について〉

- (1) 児童生徒の個性や特性を的確にとらえることができますか。
- (2) そのとらえをもとに適切な指導・支援ができていますか。

保護者の方々からの AB 評価の合計は80% ((1) 86% (2) 83%←昨年89%) を越えています。保護者の方からは「個人の特徴をよく捉えて指導してくださっていることが子どもを通じ、大変よくわかります」「今の子どもの姿を課題も含めて肯定的に捉えてくださりながら願いをもって、ご指導いただいていることが日々の先生方から強く感じています」等の声をいただいています。学校として、様々な場面で、児童生徒の人権を尊重するための取り組みを評価していただいていると考えます。

一方で、昨年見られなかった DE 評価が数%見られました。保護者の方からは、「先生によって差が出てしまうところが残念」「信頼関係が少し薄い気がする。正そうとする指導はよいが、もう少し気持ちに寄り添ったり、方向性を変えたりしてほしい」等のご意見がありました。

全職員で取り組み方を互いに振り返り、児童生徒一人一人の個性や特性を的確に捉えるようにします。そのために、職員会や部会、学年会、学担会等での情報交換や研修の充実をはかり、多くの目で児童生徒を見ながら同一歩調で指導・支援にあたっていきます。

2 〈個に応じた支援〉

- (1) 個々の児童生徒の教育的ニーズをもとに「個別の指導計画」を作成していますか。
- (2) 担任や学校職員の指導・支援は個々の児童生徒の「個別の指導計画」をもとに「分かりやすい学習、喜んで取り組む学習」をすることにつながっていますか。

保護者の方々からの AB 評価の合計は90%前後 ((1) 92% (2) 87%←昨年91%) と、高い評価をいただきました。保護者の方からは「先生に合わせるのではなく、生徒に合わせての指導ができています」「先生方の視点がとても的確で指導計画は感心してしまいます。」「子どもが喜んで学校へ行く姿が何よりの証拠なのではないか」等の声が寄せられています。「個別の指導計画を活用した授業作り」がおおむね出来てきているのではないかと考えます。

しかし、昨年見られなかった DE 評価が数%見られました。「毎年同じ指導計画のような気がする」「日々の活動の中で評価される点が出た後、計画の修正を行い、現状にあった支援に変更した方がよい」「プリントを渡してやらせるだけで、指導されてないと感じる」等の声があります。この点は重く受けとめなくてはなりません。「個別の指導計画」の作成、活用がまだまだ不十分であるということでしょう。

「分かりやすい学習、喜んで取り組む学習」を作っていくことに加え、日々「指導計画」の見直し、修正を行っていくように努めていきます。児童生徒が達成感や満足感を味わえる授業作りを今後も大切にしていきます。

3 〈チームでの支援〉

- (1) 複数の担任や学校職員はそれぞれの個性や力を発揮していますか。
- (2) 一人一人の児童生徒について共通理解し、指導・支援を行っていますか。

保護者の方々からの AB 評価の合計は85%前後 ((1) 87% (2) 84%←昨年86%) の評価をいただいています。「職員全員が一人一人のことをわかってくれている」「皆が声をかけてくださり、同じ支援をしてくださいます」等のご意見をいただいています。今年度は中学部にも部室ができ、すべての部で職員全員が集まる部室を設置することができました。このことにより、職員が互いに顔を合わせる機会が増え、学級だけではなく部全体で日々の情報交換がしやすくなりました。児童生徒の情報を共有したり、支援方法について学級を越えた話し合いができるようになったことは大変有効でした。

一方、「連絡が複数の先生に伝わっていなかったり、明らかに情報が共有されていない場面が見受けられた」「共通理解がされておらず、複数の先生に同じ話をするところがある」等のご意見もあることから、不十分な点はまだまだあるようです。日頃から、教員同士がコミュニケーションをとり、同じ方向をむいて支援にあたれるようにしていけるよう今後とも努力していかなければなりません。また、「担任一人のみの手話は見たことがあるが、それ以外の先生は見たことがない。簡単なサインも」というご意見もありました。コミュニケーション手段が多様化する中、職員の研修も必要になっています。

会議や行事の精選、仕事分担の見直し等を行う中で、授業の打ち合わせや教材研究の充実を図ると共に、特別な支援に関する研修の充実もしながら、教員同士それぞれが力を発揮し、チームとして児童生徒への支援ができるように日々研修していきたいと考えます。

4 〈保護者との連携〉

- (1) 児童生徒の生活の様子について保護者に伝えることができますか。
- (2) 保護者の方の思いや考えを受けとめることができますか。
- (3) その思いや考えを日々の学校生活の実践に生かしていますか。

AB評価の合計は、(1) 90% (2) 88%の評価をいただいています。しかし、(3)については、AB評価の合計が少し低く(84%)になっており、C評価が多くなっています。また、DE評価の合計も(1)(2)が3%に対して、(3)が4%となっています。保護者へは児童生徒の様子を伝え、思いや考えを聞く点についてはおおむねできているようですが、それを学校の実践に生かしきれていないという点を学校としてしっかり受け止めていく必要があると考えます。「保護者の気持ちを大切に考えていただいています、子どもに対する親からの指導に意見が入りすぎると感じた」「保護者の思いを生かしていただくように望みます」等のご意見からも、学校として保護者の思いや児童生徒の思いを十分に活用できるよう多くの職員で意見交換したり、保護者と相談したりしながら、指導・支援ができるようにしていきたいと考えます。

【職員による不適切な行為(体罰、暴言、セクハラ等)を見たり聞いたりしたこと】

職員による不適切な行為については、今後ともお気づきの点がありましたら、ぜひ、学校にお寄せください。今回のアンケートでは、職員の児童生徒への支援方法や言葉遣いについてのご指摘がありました。職員一人一人が自らの言動を振り返り、改善に努めていきます。また、日常的に職員間で気づいたことを話し合ったり、職員会での研修を重ねていくことにより、不適切な行為や非違行為が起きないように日々努力を続けてまいります。

【長野養護学校本校について】(分教室のみ)

今年度開設した「すざか分教室」では、本校交流を何度かしています。生徒にとっても貴重な機会となっていると保護者の方にも感じていただいています。移動距離も長く負担となることもありますが、今後も引き続き交流を続ける方向です。

一方、本校の建物の老朽化に対する不安感を上げてくださった方がおります。このことについては、PTAとしても県への陳情という形でお願いしています。安心安全な学校を求め、引き続き県へのお願いをしていきます。

【平成28年度グランドデザインの重点項目にかかわって】

<Ⅰ 子どもの人権を大切にした(的確な捉えによる的確な支援)教育の実現>

子どもの人権を大切にした対応や保護者への連絡などのやりとりはしっかりできていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は約90%(←昨年91%)の評価をいただいています。「何かあればすぐに電話したり、対応が早いです」「どんな小さなことでも連絡をしてきてくださる」「連絡帳や通信で学校の様子がよくわかり安心」「外部支援者を交えた支援会議などで出された情報を丁寧に受け止め、日々の実践に活かして下さっている。表面的な姿だけではなく、学校外の姿も思いながら対応して下さっている」「子どもたちは『さん』づけで呼ばれており、怒鳴るなどの対応はみたことがなく、一人一人を大事にいただいている」等のご意見をいただいています。

一方で、「連絡帳の内容の密度が担当者によって若干異なる」「最初に連絡をくれた先生の説明ではわかりにくく、結局別の先生に確認する。二度手間になる」等のご意見をいただいています。職員による差についてのご指摘であると考えます。職員は学級・学年・部で児童生徒の情報を共有し、一人一人に寄り添った指導・支援ができるように努力していく必要があります。今後も、引き継ぎ等で、保護者の方との連絡を密にすることや、必要な連絡は迅速に行うよう努めていきます。

<Ⅱ 学校生活(中身)づくり・授業改善>

遊びの指導、生活単元学習、作業学習等は、児童生徒の願いが反映された内容で、子どもの発達につながっていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は85%(←昨年87%)の評価をいただいています。「参観した時、いきいきとしていた」「難しいかなと思われるような作業内容であっても本人の希望や願いを受け止めてくださり、段階を追いながらそのチャンスをつくって挑戦することを見守り、指導していただいている」「気持ちののらない時などは、具体的に『ここまでがんばろう』と示してもらうことで子どももがんばることができている。また、できるようになったらリーダーに挑戦させてもらうなど、常に前向きに向かわせてもらっている」等のご意見をいただいています。中には「イレギュラーなイベントのようなことが多いと感じるが、一度経験したことは見通しがもてるようになってきていることを考えると、卒後のためにも多様な経験が必要なのかもしれないと思うようになった。でも、事前・事後学習する余裕がほしい」という声もありました。職

員がしっかりと見通しをもち、この学習がそれぞれの児童生徒のどのような力に結びつくかを見据えて教材研究していくことの重要性を示していただいているように思います。「もっと個別学習にも力をいれてほしい」というご要望もあります。

職員は、専門の外部講師（大学教授や教育事務所の指導主事等）を招いての研究会や他校の先生方に授業を見ていただきながら研究をしています。さらに、児童生徒の願いが反映され、子どもの発達につながる研究・研修を積み重ね、よりよい学校生活づくり、授業作りをしていきたいと考えます。学習形態のあり方についても検討を進めていきます。

＜Ⅲ 誰にも優しい安心安全の学校生活（環境）づくり＞
子どもにとって生活しやすく、安心安全な環境整備の工夫がされていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計は６５％（←昨年７０％）と他の項目と比較して低くなっています。その分Ｃ評価が３０％と高くなっているのが特徴的です。校舎の老朽化やエアコン・網戸などの設備面への不安や不満と捉えてよいかもしれません。ＰＴＡにより県へ陳情したところ、アスレチックの撤去、エアコン設置（２台）、プレハブ校舎への網戸設置、トイレ改修等少しずつ改善をしているところです。近年叫ばれている災害への対応を考えても、校舎の全面改築等は必要と考えますが、県の予算の範囲内で行われているところでありますので、学校、ＰＴＡで引き続きお願いはしていきたいと考えます。「現状の施設の中で、先生方の工夫や配慮でまかなわれている」というお声もいただいています。要望は続けていきますが、現状与えられている環境をいかに安心安全に利用できるかを考えていきます。

＜Ⅲ 誰にも優しい安心安全の学校生活（環境）づくり＞
長養祭・儀式的行事は児童生徒にとって、少しでも分かりやすく、やさしい行事になっていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計は８６％（←昨年８９％）の評価をいただいています。「映像を使うことが多いので、子供たちにもわかりやすい」「前もってわかりやすいスケジュール表を作ってもらえて子供たちも理解しやすい」等のご意見をいただいています。視覚支援は児童生徒が混乱しないように今後とも準備していくことが有効であると考えます。

一方、「長養祭は見通しがもちにくい。複雑、親もわけがわからない」「毎日のスケジュールが変わり、混乱する」「入学式は子どもにとってわかりやすいですか？親が養護学校に入れる決断をしたことを後悔しないようにしてほしい」等の声をいただいています。行事がイレギュラーな活動であるため、見通しのもちにくさが指摘されているのだと考えます。

今後、これらのご意見を参考にしながら、児童生徒にわかりやすく、見通しのもちやすい行事となるよう検討を続けていきます。

＜Ⅳ 特別支援教育のセンター的機能の発揮＞
「個別の教育支援計画」を基に、学校や関係諸機関、地域の支援者等との連携が図られ、児童生徒にとって充実した支援会議になっていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計は７７％（←昨年７９％）と他の項目と比して低くなっています。しかし、２０１３年６４％→２０１４年７０％→２０１５年７９％→２０１６年７７％と推移していることを考えると、「個別の教育支援計画」をもとにした支援会議も少しずつ充実してきている評価できます。「少し前に初めて支援会議に出席させていただき、個人のためにこんなに多くの方々にフォローしていただけるんだと感激しました」「定期的に支援会議を開いていただき、共通理解の場があり、本人を知ってもらえる」等のご意見があり、支援会議が有効であると実感していただいています。

しかし、「関係機関、放課後デイサービスを利用しているが、どのようなことをしているのかが見えない。支援会議が形だけになってしまっているように感じます」というご意見もありました。また、職員の中にも、支援会議のメンバーや時間、目的の明確化等再確認しなくてはならないのではないかと問題提起もありました。

支援会議の有用性は認めつつ、目的の明確化、効率的な会議の進め方等工夫し、保護者や外部関係者、職員が有益である考えられる支援会議となるようにしていきたいと考えます。

【全体を通じてコメントがあれば記入してください】

様々な視点からのご意見をいただきました。ありがとうございます。これらの意見に関しては、職員会等で全職員が共有し、校務分掌や各部署で改善していきます。今後とも、ご意見、ご要望をお寄せください。職員が気づけなかった視点を与えてくださる点、本当にありがたいと思います。なお、これらのご意見は、来年度の「グランドデザイン」の見返りに活用していきたいと考えています。

【平成28年度寄宿舎評価：全体にかかわって】

1 〈人権を尊重した接し方について〉

- (1) 児童生徒の個性や特性を的確にとらえることができますか。
- (2) そのとらえをもとに適切な指導・支援ができていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は97% ((1) 97% (2) 97%←昨年91%)と大変高い評価をいただいています。特筆すべきは、A評価が(1) 52% (2) 51%という値です。生徒の個性や特性を的確に捉え、生活の支援にあたっていると云えます。「むずかしい点が多々あるにも関わらず、良く対応してくださっています」「子どもに気持ちに寄り添って支援していただいている」「公平」等の声を寄せていただいています。日頃から保護者や生徒の話に耳を傾け、その声を基に活動していたり、昨年ご指摘いただいた生徒の呼び方を「～さん」「～くん」に徹底しようとしているなど、人権の尊重に意識をむけて取り組んでいる点を評価していただきました。

2 〈個に応じた支援〉

- (1) 個々の生徒の教育的ニーズをもとに「寄宿舎 個別の指導計画」を作成し、保護者と共有できていますか。
- (2) 「寄宿舎 個別の指導計画」をもとにした寄宿舎職員の指導・支援は、生徒の成長した姿につながっていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は97% ((1) 100% (2) 97%←昨年94%)を越える高い評価をいただいています。特に「寄宿舎 個別の指導計画」を保護者と共有できているかという点(1)については100%の方が共有できているとお答えいただいている点は日々の寄宿舎職員の努力の賜物と考えます。「本人の育ちへの願いを先生方にも親と共有していただいております、温かく、また、根気よくご指導いただき、見守っていただいております」「生徒の自主性を引き出す指導をしていると思います」「子どもの生活改善につながっており、とても成長しているように思いますので、とてもいいと思います」という声が寄せられています。

今後も、引き続き保護者・生徒とともに課題を整理し、個別の指導計画を作成すると共に、より生徒の成長につながるよう取り組んで参ります。

3 〈チームでの支援〉

- (1) 担当や寄宿舎職員が共通理解し、しっかりと連携を取り合いながら児童生徒の指導・支援を行っていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は93% (←昨年91%)を越える高い評価をいただいています。「担当の先生はもちろんのこと、どの先生方にも安心して、子どもの様子などをお話する事が出来ます。また、多くの先生方から本人の様子をお話して下さり、感謝しています」「寄宿舎の時はしっかり申し送りなどされているようです」等のご意見をいただいています。また、職員も「日々の引継会やブロック会で舎生のことをよく話し合うことができた」「ブロック会を利用しながら、悩んでいることなど、話せてよかった」等日頃から情報交換がなされていることという声が寄せられています。

一方、「時々、日直と宿直職員の引継ぎがされていないことがある」というご意見もありました。今まで以上にブロック会や引継会のみではなく、日常的に重点課題の達成の度合いや手だてについて話し合っていくようにします。

4 〈保護者との連携〉

- (1) 生徒の生活の様子について保護者に伝えることができますか。
- (2) 保護者の方の思いや考えを受けとめることができますか。
- (3) その思いや考えを日々の学校生活の実践に生かしていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は95% ((1) 98% (2) 97% (3) 95%←昨年91%)を越える高い評価をいただいています。「安心して、先生方に親の心配ごとなどもお話できます。子どもだけでなく、親の思いにも寄り添ってくださるからです」「連絡や泊まりのときの様子もしっかり教えていただいているので安心してしています」等のご意見をいただいています。職員に対して安心して話ができるようで、信頼していただけている様子が伺えます。また、「宿泊や行事など苦手なことを無理せず、気持ちに合わせてくださっている」というご意見からも生徒の気持ちに寄り添って対応している点にも安心感を感じていただいているようです。

一方、職員からは「家庭へ伝えたり、お願いしたりする場面が多いが、家での様子等わからないことが多い。連絡ノートだけではなく、直接お話ができる機会を大切にしていきたい」という意見がでています。寄宿舎参観や寄宿舎懇談のときだけではなく、授業参観日や懇談会など学校に立ち寄ったときに、寄宿舎にも顔を出していただき、情報交換が出来る機会をさらに増やしていくことで、生徒の様子や保護者の願い等をもっと共有していけるのではないかと考えます。